

第 3 回 SSH 国際交流講演会「海外で活躍する卒業生の講話」

令和 6 年 8 月 28 日(水)16:00~18:00 に、5 階多目的室 CD で第 3 回 SSH 国際交流講演会が実施され、1 年生 21 名、2 年生 35 名が参加しました。今年度 3 回目の講演会の講師は、本校 70 回生で現在はチェコ共和国のカレル大学第一医学部に通う藪あゆいさんと、本校 74 回生で現在は台湾の元智大学に通う菅原そよかさんで、タイトルはそれぞれ「留学することに価値はある?」、「My Journey as a Foreign Student in Taiwan」でした。

藪あゆいさん (本校 70 回生、バスケット部)

カレル大学(Charles University)第一医学部6年

藪さんは高3の夏からの一年間のアメリカ留学をきっかけに英語で医学を学びたいと考え、日本より比較的入試の負担が少ない欧州の大学を受験し、カレル大学第一医学部へ進学されたそうです。本講演では一高生時代や高校留学時について、そしてカレル大の入試やチェコ・カレル大での生活、最後に留学全般について、藪さんの経験をもとにお話しいただきました。



Q&A

Q. 留学生活で感じた一番のギャップ・カルチャーショックは?

A. アメリカの人はフレンドリーな人が多く、突然知らない人に服を褒めて話しかけたりすることも意外と普通。一方チェコの方は日本人に似て他人に無関心な人が多い。

Q. 英語の学び方は?

A. 英語の映画や動画をよく見ていた。ホームステイ先の子供たちと子供向けの動画を見たり、バラエティー番組を見たりしていた。そして英語を話さざるを得ない環境にすることで、英語の力がつき、自然と学習意識が高まった。

参加者の感想

- ・チェコやヨーロッパの大学について初めて知ることが多くとても興味深かった。
- ・スライドに写る藪さんがどれも楽しそうにしている、海外留学が魅力的に感じられた。
- ・留学について長所や短所、気を付けるべきことなど、経験者だからこそわかることを多く話してくださりこれからの進路を考えるうえで参考になった。
- ・藪さんの行動力がすごいと思った ・藪さんの話を聞いていつか留学してみたいと思った。

菅原さやかさん（本校 74 回生、バドミントン部）
元智大学(*Yuan Ze University*)情報管理学科2年

菅原先輩は一高卒業後、台湾の情報管理学科に進学した。もともと海外で働きたいという夢があったが、海外で働くためには現地の人々よりも優れていなければならない、英語は多くの人が話せるため、アドバンテージとして中国語も話せるようになりたいと思い留学の決意を決めたという。また、台湾は学費が安く、大学から奨学金が貰えることも留学を決めた理由の一つだったそうだ。

留学においては自分の考えを思うように表現できないことが最大の壁であったと述べ、他にも食文化の差異や、困難に直面した際に頼れる人が少ないことなどに苦しんだという。多くの困難に直面した中で菅原先輩は *Don't stop thinking* : 考え続けることの大切さを強く感じ、諦めずに考え続けていればおのずと道は開けてくるということを、実体験を踏まえて教えてくれた。

また、海外の人は日本人とは異なり、他者からの評価を気にせずに自分軸を持って働いたり、学ばなおしをしたりする人が多いと感じたそうだ。一高生には *Just live your life* : 他者からの評価に左右されずに自分の人生を生きていってほしい、と語った。



↑ 講演会の様子

参加者の感想

- ・ 留学して海外に行くことの抵抗がなくなったと言っていてすごいなと思いました。
- ・ 台湾は留学生に向けた奨学金制度が充実しているなど貴重なお話をたくさん聞けていい経験になった。
- ・ 外国語を使う環境に自分から身を置くことが大切ということを知った。

【編集後記】

学校生活や日常風景など、留学先での暮らしを写真付きで詳しく聞くことができ、留学に対するイメージがはっきりしたように思う。主体的に情報を集め、自分の進路のビジョンをかためていきたい。